

ひとを育てる活動

サンタクルスミッション校/SCMSI 定期支援の終了と 新しい形でつなぐチボリの子どもの支援

「新しい支援方針に関するメール拝見しました。引き続き、チボリの子どもの支えていただけるとわかり安心し、また、感謝しています」

ここ1年余り、各種問い合わせや、近い将来の支援方針提示にも返信がなく、「レイクセブ町長夫人としても何かと多忙のようで・・・」とお伝えしてきたSCMSIガンダム学長からようやくメールが届きました。日本の市民による40年に渡る学校運営に対する定期支援の終了直前、3月末のことです。

学校運営自体を支える必要はなくなったと判断して昨秋のうちに提示した定期支援の終了ですが、コロナ禍が長引くなか、父母負担の各種校納金収入が減り、カレッジやハイスクールに対する政府の補助金や奨学金だけではやりくりが厳しくなっているようです。

ガンダム学長のメールには、安堵と感謝の言葉に続いて、以下のような政府資金に関する説明もありました。

SCMSIカレッジ生の約8割が対象となっている政府奨学金UniFAST(月額5000ペソ)については、学校に入るのは授業料分(月額2000ペソ)のみで、残りは教材費や生活費として学生に手渡されるため、政府資金は教員の給与支払い分にしかないこと。

また、生徒、学生が負担する各種校納金も、ハンディクラブ販売や観光施設で働く母親の収入が減るなど、伝統文化とセブ湖など観光資源に恵まれたレイクセブ町ゆえのコロナ禍の影響、校納金納入率低下、学校運営原資の減少にも触れていました。

私たちは2021年度予算案を策定するにあたり、すでに決定していた創立記念やクリスマス時などの寄付ベースによる支援のほか、SCMSI校在籍が条件の現里子16名への「奨学金」支給も加えて、些少ではあってもコロナ禍のSCMSI運営を支えることにしました。

1980年に発足した「チボリ国際里親の会」は、「里親方式」による学校運営支援であったためか、当団体が支援を引き継いだ2013年度以降、確実に届く里子の年1回の現況報告が、SCMSI校について、また、チボリの子どもの家庭の様子を知る唯一貴重な情報源になっていました。本年度からの里子への奨学金支給では、その奨学生報告にも期待したいと思います。以下、2021年度のSCMSI支援の内容です。

- ① 里子16名について前・後期各5000ペソの奨学金を支給。
- ② 外部大学で学ぶカレッジ生6名の奨学金を継続する。
- ③ 伝統文化継承を建学の精神とするSCMSI校創立記念日の9月とクリスマスの年2回寄付を贈る。
- ④ その他、学校設備ほか協力要請があった場合は、会員のご協力を得て支援する。

長期に渡り、SCMSI校運営を定期支援の形で支えていただいた皆様、ありがとうございました！

5月28日には第1期生が卒業します

レイクセブ町辺境ティヌオス村の代替学校/ALS

昨年10月、ティヌオスの先住民族学校を拠点に始まったハイスクール中退者対象の代替学校ALS、間もなくその1期生を送り出すことになりました。

教室での授業は、週1回木曜日だけで、そのほかは子育てや竹細工などの手仕事、また、農作業などをしながら、与えられた課題、自習教材に取り組んできた男女計20名が、規定の課程を終えたとして、5月28日にレイクセブ町中心部の小ホールで開催の修了式に臨むことになりました。

ALSでハイスクール修了資格を得たことにより、カレッジや専門学校進学も可能になりますが、第1期生の中に、その希望者がいるかは聞いていません。

また、ALS修了の20名の中には、「ティヌオス手仕事組合/TWH」(関連記事P3)のメンバーもいます。ALSでの学びが組合運営に生かされることも期待しています。

一堂に会して祝うこととなった修了式と異なり、ALSの始まりは、口コミで広がり、説明会も3回実施されました。写真は11月2日のオリエンテーション参加者8名とアニータ先生。



バシエート寮カレッジ奨学生・短信

いつも各種問い合わせに迅速に対応してくれるCMIP事務局のチャリスさん。3週間以上連絡がありませんでした。コロナ感染が続くジェネラルサントス市内の移動、出勤を控えているかもしれないと、学生寮と同じ敷地に住むCMIP代表マニー神父に奨学生の様子を聞きました。

学生たちは4月に入っても2020年度後期のオンライン受講を続けているが、2年生のキンバリーは親の介護のため、サムラングの実家に戻ったとのことでした。マトトン山裏側の村はオンライン受講に多少支障があるかもしれませんが、期末まで頑張ってもらいたいと思います。

4月中旬過ぎ、ようやくチャリスさんからメールがありました。本人含めて家族3人次々に風邪で寝込んだとのこと。コロナの言葉は見当たらず、まずは安心しました。

あしなが奨学生紹介



入学断念のポーリーンに代わり、同じボルール村のジョルダンが決まりました。

社会福祉専攻1年生で父母は他界、祖母と暮らしています。

辺境でのオンライン受講



電波がよく届くところを探してセブ湖を見下ろす丘の上でスマホ操作の高山奨学生チェリル。